

商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2009年5月調査結果 -



2009年5月29日

< 結果のポイント >

5月の全産業合計の業況DIは 65.7と、前月に比べ+4.7ポイントと、マイナス幅が大幅に縮小した。前月比4ポイント以上のマイナス幅の縮小は2005年5月以来4年振り。依然厳しい水準ながら3カ月連続でマイナス幅が縮小するなど、底打ちへの期待がさらに増してきた。

業種別では、依然として厳しい水準ながら、建設業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

世界的な景気悪化の影響により、建設業、製造業を中心に、受注や売上の減少、雇用の過剰感など引き続き厳しい状況を訴える声が多い。従業員DIは 21.2と、調査開始以来の最悪値を記録した前月(21.9)に引き続き厳しい結果となった。

先行きについては、在庫調整の進展による生産の下げ止まり、高速道路料金値下げや定額給付金の効果、さらには公共工事に期待する声が寄せられている。一方で、新型インフルエンザの感染拡大による受注や売上の減少、雇用情勢のさらなる悪化などにより、景気底割れを危惧する声もある。

----- 調査要領 -----

調査期間 2009年5月18日～22日

調査対象 全国の406商工会議所が2584業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業：383 製造業：615 卸売業：234

小売業：734 サービス業：618

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839

E-Mail:Sangyo1@jcci.or.jp

http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html

業況DIは、マイナス幅は大幅縮小、3カ月連続の改善

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、65.7となり、前月に比べ+4.7ポイントとマイナス幅が大幅に縮小した。依然として厳しい状況が続いているものの、3カ月連続でマイナス幅は縮小するなど、底打ちへの期待がさらに増してきた。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら、建設業を除く、すべての業種でマイナス幅は縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、世界的な景気悪化の影響により、建設業、製造業を中心に、在庫調整の進展による生産の下げ止まり、高速道路料金の値下げや定額給付金の効果、さらには公共工事に期待する声が寄せられている。一方で、新型インフルエンザの感染拡大による受注や売上の減少、雇用情勢の更なる悪化など引き続き厳しい状況を訴える声が多い。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】～業況DI、売上DI、仕入単価DI、従業員DIでマイナス幅が拡大～

- ・「公共工事の前倒し実施は行われていない」（一般工事業）
- ・「夏の終わりから秋にかけて仕事のない月が続く」（土木工事業）
- ・「公共・民間工事ともに非常に厳しい。近々廃業する事業所も少なくない」（建築工事業）

【製造業】～業況DIを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小～

- ・「住宅着工数の激減と極端な値引きに苦慮」（製材木製品製造業）
- ・「在庫調整による大幅な減産は終わったが、依然厳しい状況」（自動車・同附属品製造業）
- ・「携帯部品・電子部品関連は、在庫調整が進み、稼働率が約70%程度まで回復」（陶磁器・同関連製品製造業）

【卸売業】～業況DIを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小～

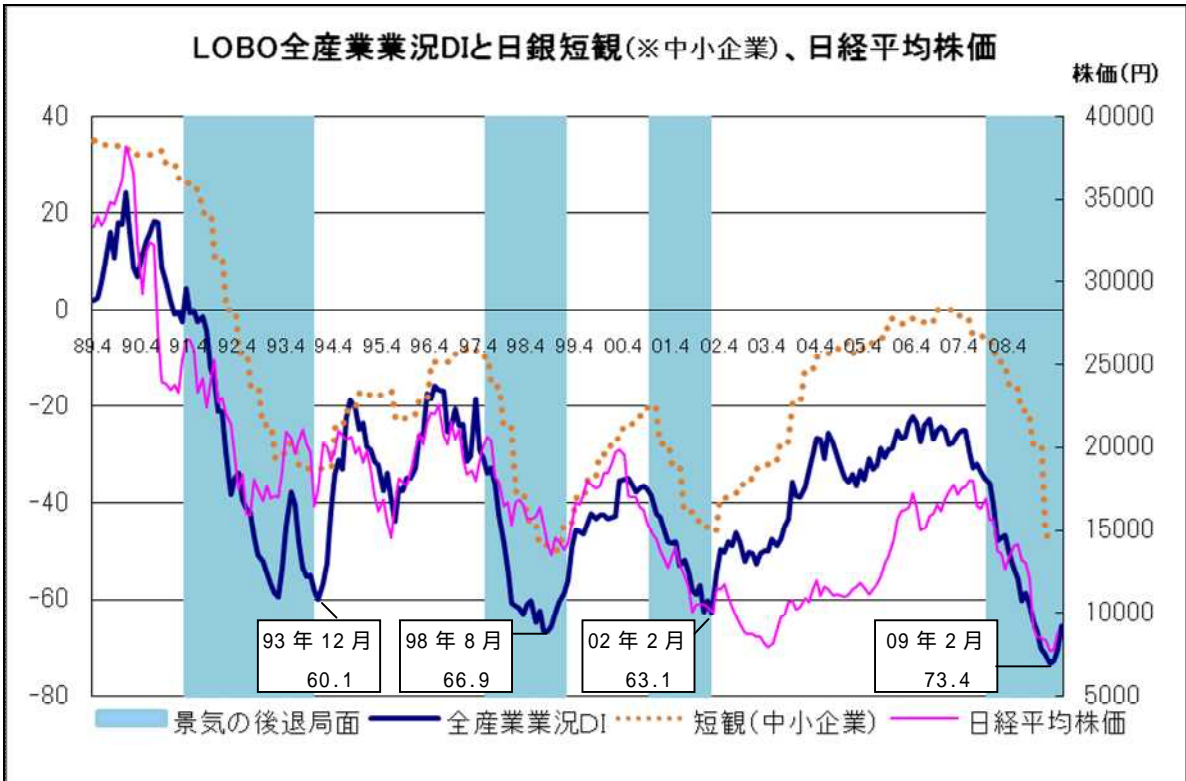
- ・「マスクやアルコール消毒液などインフルエンザ関連商品の売上が好調」（各種商品卸売業）
- ・「ますます消費者の低価格指向が進んでいる」（衣服・身の回り品卸売業）
- ・「売上が下げ止まらず、前年同月比10%以上減少。体力勝負となっている」（鉱物金属材料卸売業）

【小売業】～業況DIを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小～

- ・「新型インフルエンザの影響で食品は備蓄できるものは売上増、生鮮品は減少」（百貨店）
- ・「夏のボーナス減少による売上減少を懸念」（その他の小売業）
- ・「定額給付金を活用した商品券の効果で商店街の来客数が増加」（商店街）

【サービス業】～業況DIを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小～

- ・「高速道路料金値下げの効果で利用客が増加。土日に期待」（食堂・レストラン）
- ・「新型インフルエンザの感染拡大により、宿泊などのキャンセルが止まらない」（旅館）
- ・「燃料価格が上昇傾向にあり、業況の悪化を予想」（その他サービス業）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、65.7と、前月に比べると+4.7ポイントとマイナス幅が大幅に縮小した。依然厳しい水準ながら、3カ月連続でマイナス幅が縮小している。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら建設業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(6月~8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が53.9と、昨年同時期の先行き見通し(48.2)に比べて約5ポイント悪化している。

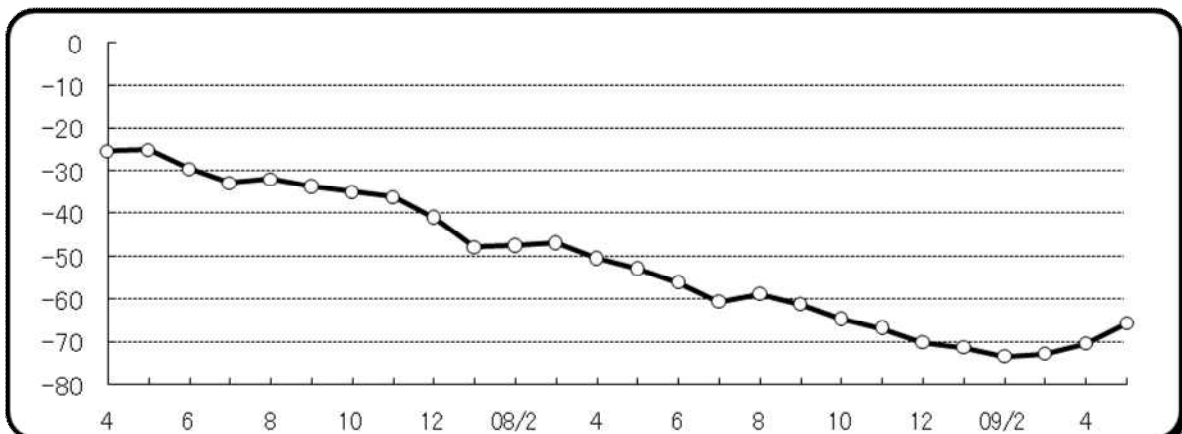
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設業を除く、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

業況DI(前年同月比)の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	70.2	71.3	73.4	72.8	70.4	65.7	53.9 (48.2)
建設	74.2	73.2	75.8	72.1	70.9	71.6	60.8 (61.1)
製造	72.7	72.5	75.6	73.5	74.4	69.1	51.3 (46.7)
卸売	67.6	71.6	71.1	70.5	66.7	66.2	50.0 (41.1)
小売	69.2	70.6	71.5	75.5	70.9	66.2	55.9 (46.9)
サービス	67.3	69.6	72.6	70.2	66.9	57.7	51.3 (45.8)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年5月の先行き見通しDI <以下同じ>

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、63.2となり、依然厳しい水準ながら2カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設で拡大したものの、他の4業種では縮小した。

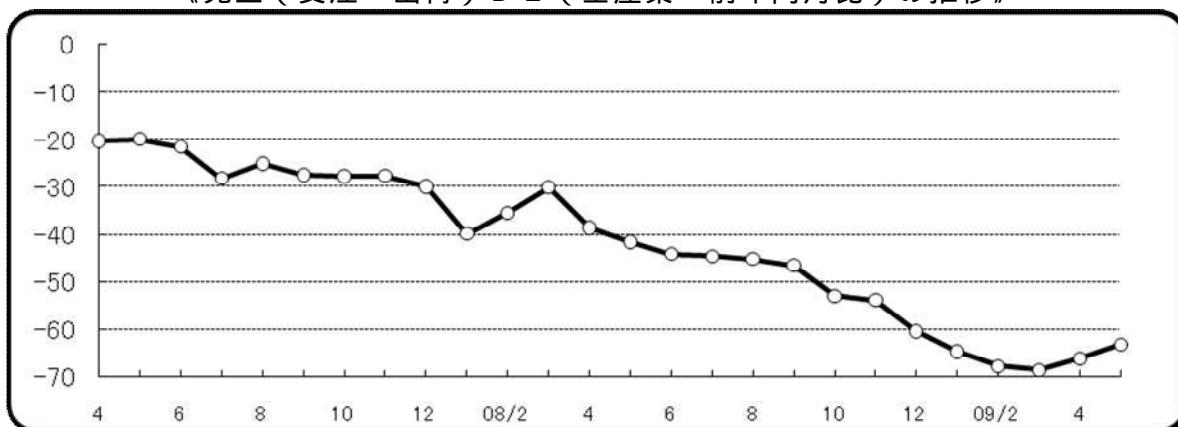
向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が50.0と、昨年同時期の先行き見通し(37.1)に比べ約13ポイント悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	60.4	64.7	67.7	68.5	66.2	63.2	50.0 (37.1)
建設	63.1	69.4	68.2	64.8	68.2	69.3	51.9 (50.8)
製造	59.2	65.4	72.3	68.7	70.3	68.2	45.5 (32.2)
卸売	60.0	60.1	57.8	68.5	60.9	53.8	43.1 (20.9)
小売	58.7	63.8	67.7	72.1	65.9	60.8	53.3 (39.7)
サービス	61.9	64.0	66.5	66.7	63.2	60.5	52.1 (36.7)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、61.0となり、前月に比べ+5.3ポイントとマイナス幅が大幅に縮小した。依然厳しい水準ながら3カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、すべての業種で縮小した。

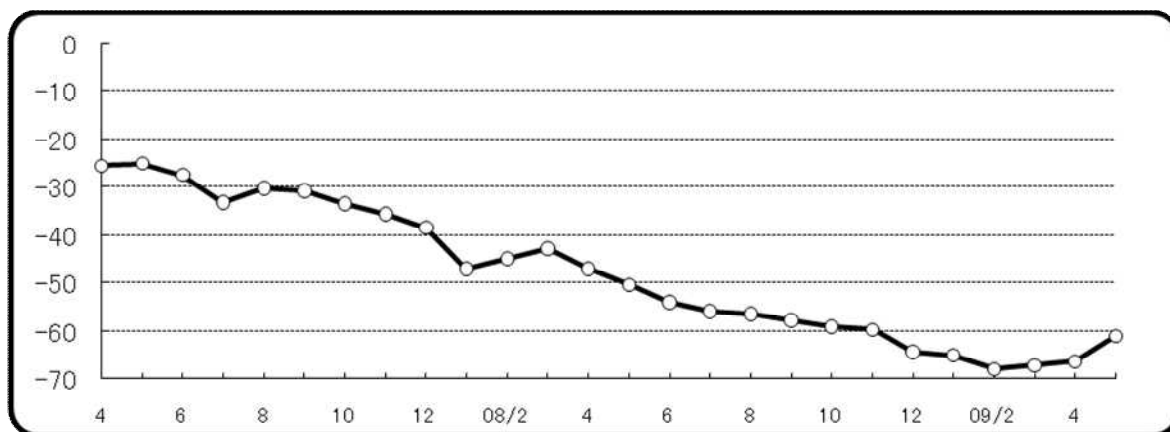
向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が51.6と、昨年同時期の先行き見通し(45.7)に比べて約6ポイント悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設業を除く、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	64.4	65.1	67.9	67.2	66.3	61.0	51.6 (45.7)
建設	66.4	68.5	70.8	67.0	70.5	64.7	55.3 (58.4)
製造	68.3	67.8	73.6	71.6	73.6	68.2	51.4 (46.0)
卸売	57.9	59.5	55.2	60.3	56.9	53.8	43.8 (31.3)
小売	61.4	62.3	66.5	67.4	64.4	59.3	53.2 (43.5)
サービス	65.3	65.7	67.0	65.2	61.9	56.0	50.4 (45.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	45.9	45.8	48.5	48.1	46.9	43.1	38.5 (31.7)
建設	56.8	51.6	59.2	57.7	56.4	51.3	45.4 (48.4)
製造	50.1	52.6	54.2	53.2	57.3	52.7	47.6 (30.5)
卸売	42.3	43.0	41.1	43.8	41.2	40.1	32.4 (24.2)
小売	38.2	38.6	40.2	40.3	39.2	34.8	31.9 (25.6)
サービス	44.3	44.3	47.8	46.8	40.7	38.2	34.6 (31.8)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、43.1となりマイナス幅が3カ月連続で縮小した。産業別にみると、すべての業種でマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計は引き続きマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみても、すべての業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	40.4	31.1	28.0	25.7	15.4	13.6	10.8 (49.8)
建設	46.6	35.0	34.1	29.6	19.7	22.3	16.8 (60.5)
製造	42.4	29.3	28.4	26.8	15.6	12.3	10.1 (54.6)
卸売	29.2	19.6	18.0	17.2	18.8	11.8	9.8 (39.9)
小売	35.5	30.4	27.2	23.9	11.4	9.8	7.0 (45.7)
サービス	44.5	35.8	28.4	27.9	15.5	14.4	12.4 (46.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは13.6となり、引き続き上昇感は弱まっている。産業別にみると、建設を除く、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感は弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	16.3	18.1	20.2	20.0	21.9	21.2	18.5 (7.3)
建設	30.3	39.6	37.4	34.5	34.5	39.5	36.3 (22.9)
製造	22.9	27.5	28.7	28.6	33.0	31.7	21.1 (5.8)
卸売	15.3	17.0	18.8	20.7	23.9	17.9	19.4 (8.0)
小売	8.5	5.4	8.2	8.4	11.8	10.7	10.0 (1.5)
サービス	10.1	9.7	14.5	14.7	13.6	11.9	13.4 (5.2)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、調査開始後の最悪値を記録した前月からほぼ横ばいで推移。産業別にみると、D I値は建設で過剰感が強まった一方、他の4業種は過剰感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売、サービスは過剰感が強まり、他の3業種、特に製造では過剰感が弱まる見通し。

【2009年5月の景気キーワード】

雇用情勢のさらなる悪化

依然低調な売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感や賃金削減の実施に関する声が多い。建設業からは、「受注の大幅減の影響で従業員を削減した企業が増加」（土佐清水・建築工事業）、製造業からは、「4月から仕事量が半減。中小企業緊急雇用安定助成金の利用を開始したが、助成金・融資等では追いつかないほど業況は悪化。一層の経済対策を望む」（水戸・金属加工機械製造業）、「従業員の一時帰休を月平均5日実施」（船橋・一般産業用機械製造業）、卸売業からは、「収益改善に向けて、リストラを行う必要がある」（鹿児島・各種商品卸売業）、サービス業からは、「時短等を実施し従業員を解雇せず雇用を維持している」（三木・その他の一般飲食店）などの声が寄せられている。

経済対策に対する期待感

定額給付金や高速道路料金値下げなど政府が打ち出している大型経済対策による景気底入れへの期待感が引き続き寄せられている。製造業からは、「住宅ローン減税と贈与税減税等が経済対策に盛り込まれた。需要回復につながってほしい」（松阪・製材木製品製造業）、小売業からは、「定額給付金の支給、プレミアム商品券の発行により売上が4月から5月上旬にかけてやや好調」（龍野・商店街）、「エコポイントによる家電売上が増加。若干のプラス効果が出てきている」（蕨・百貨店）、サービス業からは、「高速道路料金割引で来客が増え、売上は15%～20%増加」（須崎・食堂・レストラン）などの声がある。

一方で、「当地区では公共工事の前倒しはまったくない」（大町・一般工事業）、「4月以降、公共工事、民間工事とも新規受注は、先延ばし、凍結され、受注が伸びていない」（豊田・一般工事業）、「公共工事前倒し実施がされているとは思えない」（観音寺・建築工事業）といった景気対策の早期実施を求める声も多い。

新型インフルエンザの悪影響

新型インフルエンザの国内での感染拡大に伴い、悪影響を懸念する声や深刻な影響が出始めているとの声が寄せられている。卸売業からは、「新型インフルエンザの感染拡大をうけて、学校給食、観光地をはじめ外食関係の商品供給が減少」（豊岡・農畜産水産物卸業）、小売業からは、「新型インフルエンザ対策商品は売れているが、入手困難な状態」（半田・百貨店）、「外出控えによる、売上の減少を懸念」（八王子・商店街）、「人通りが減少」（倉吉・商店街）、サービス業からは、「修学旅行のキャンセルや延期が大量に発生。ホテルによっては全館空室の日もある」（那覇・旅館）、「感染警戒により客数が減少」（池田・公衆浴場）などの声があった。

また、会員企業に新型インフルエンザに関する緊急アンケートを実施した加古川商工会議所からは、「顧客から面談を先送りされた」、「マスクが入手困難ため営業行為を自粛せざるを得なかった」、「学校等の一斉休校により女性従業員等の出勤が困難になり生産能力が落ちた」という報告もあった。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 3月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化
4月	受注の大幅な減少	雇用情勢のさらなる悪化	先行きに対する期待感
5月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	新型インフルエンザの悪影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況D I、売上D I、仕入単価D I、従業員D Iでマイナス幅が拡大した。特徴的なコメントは以下のとおり。</p> <p>「依然状況は厳しいが、徐々に好転の兆しが見え始めている」、「景気回復による工事の増加を期待」(ともに一般工事業)「公共工事前倒しに期待」(土木工事業)「売上は減少傾向。一方で、仕入単価が下がり採算は改善」(電気工事業)</p> <p>「公共工事の前倒しは行われていない」、「公共工事の発注はなく、見通しは悪い」(ともに一般工事業)「戸建住宅の着工件数は依然厳しい」、「期待したほど公共工事は増えていない」(建築工事業)「設備投資の減退による悪影響を懸念」(電気工事業)</p>
製 造	<p>業況D Iを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小した。特徴的なコメントは以下のとおり。</p> <p>「補正予算が成立・施行されれば年度後半の景気底打ちも期待できる」(ゴム製・プラスチック製履物・同附属品製造業)「住宅減税の効果で下げ止まり感がある」(建設建築用金属製品製造業)</p> <p>「在庫調整は落ち着いたが、回復の兆しは見えない。先行きを懸念」(鉄素形材製造業)「低価格商品しか売れず状況は厳しい」(その他の食料品製造業)「売上は過去最低で推移」(繊維雑品製造業)「雇用調整助成金を利用し回復を待っている企業が増加傾向」(製材木製品製造業)「受注のキャンセルや納期延長により売上減」(他の輸送用機械製造業)</p>
卸 売	<p>業況D Iを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小した。特徴的なコメントは以下のとおり。</p> <p>「ETC特需などで売上は前年対比微増」(各種商品卸売業)「季節から、これからの売上はよくなっていく」(食料・飲料卸売業)</p> <p>「消費者の買い控えと低価格志向の影響で厳しい状態」(各種商品卸売業)「野菜・果実とも売上は伸び悩み」、「売上が下げ止まらず影響は大きい。セーフティネットも利用したが息切れ」、「先行き見通しはまったくたたない」(ともに農畜産水産物卸売業)</p>
小 売	<p>業況D Iを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小した。特徴的なコメントは以下のとおり。</p> <p>「ゴールデンウィークは客数増など好転。先行きは引き続き厳しい状況が続くと予想」(その他の小売業)「売上、採算は減少傾向であるが、減少幅は縮小している」(商店街)</p> <p>「新型インフルエンザの感染拡大による売上への影響を懸念」、「売上減少が止まらない。今後についても明るい材料がなく回復が見込めない」、「個人消費の回復感はない。定額給付金の効果も感じられない」(ともに百貨店)「新型インフルエンザ対策商品の品切れが続いている」(その他の小売業)「地方の中心商店街は、シャッター通り化している。個人消費の低迷で、景気回復の出口も見えない」(商店街)</p>
サービ ス	<p>業況D Iを含め、すべての項目でマイナス幅が縮小した。特徴的なコメントは以下のとおり。</p> <p>「セーフティネット貸付などで資金繰りは好転」(食堂・レストラン)</p> <p>「高速道路料金値下げ効果で土日の個人客は増加」(旅館)</p> <p>「小規模飲食店の廃業が続出」(食堂・レストラン)「新型インフルエンザの影響による来客者数の減少を懸念」(喫茶店)「取引先から定額給付金に対応した宿泊プランの検討を打診されているが、採算度外視の感が強い」(旅館)「高齢を理由とする廃業、病気を原因とする組合退会など、組合離れが続いている」(理容業)</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、近畿、中国を除いた7ブロックでマイナス幅が縮小している。近畿では、新型インフルエンザの影響が出ているとみられ、中国では、製造業を中心に雇用の過剰感が強まっている。

ブロック別の向こう3カ月(6月～8月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道と四国を除く7ブロックで悪化している。四国では、前月(5～7月 41.3)に比べ高速道路料金値下げ効果による反動もあり下方修正された。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	08年 12月	09年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	70.2	71.3	73.4	72.8	70.4	65.7	53.9 (48.2)
北 海 道	70.5	63.5	70.8	60.7	62.9	58.8	45.9 (52.1)
東 北	78.2	72.9	70.9	71.9	72.7	64.6	54.6 (50.0)
北陸信越	67.6	75.7	72.9	73.3	70.7	58.7	50.9 (41.7)
関 東	71.1	71.6	77.0	73.8	71.9	67.4	53.0 (45.9)
東 海	67.6	70.3	71.9	70.3	77.0	75.4	55.8 (50.6)
近 畿	76.1	75.3	79.8	77.5	74.1	74.2	60.8 (48.4)
中 国	73.3	74.4	77.7	81.2	74.1	77.2	59.8 (50.4)
四 国	55.3	63.6	59.8	66.4	49.6	47.7	47.0 (55.7)
九 州	65.8	69.8	69.5	71.8	71.6	60.9	54.3 (46.5)